

平成23年度 第3回心理学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日時：平成23年9月1日 午前10時から午後4時まで

場所：私立大学情報教育協会会議室

出席者：木村委員長，金子委員（午後1時に退席），今井委員（記録）
（事務局）井端事務局長，森下主幹，松本職員

1. 配布資料説明

配布資料について事務局から説明があった。その中で，資料 3.1 の授業モデル案（資料 3）がかなり大部のものだったので，事務局側で短くまとめたものとの説明があった。

2. 議事

(1) 学士力実現に求められる授業改善モデルの中間まとめについて

(a) 全体的な方針の確認

授業改善モデルのまとめの方針について，事務局長より説明があり，以下の点が確認された。

- ・今日の委員会で授業改善モデルの原案を検討し，最終的に完成させ，それで会員にアンケートをとる。そのため，項目の配列などは他の授業モデルと統一し，内容も簡潔にすることで，会員に無理なく読んで貰えるように配慮する。
- ・各委員会からは，それぞれ2つの授業モデルを提示する。
- ・直近の改善ではなく，5年後を見据えた，少し“背伸び”をした授業提案を意識する。

(b) 原案（基礎系）についての検討

- ・最初に委員からの補足説明を受け，それを踏まえて全員で原案を修正した。全体として，体裁を他の授業モデルと揃えることや，個別的で具体的な授業計画や個々の ICT デバイスへの言及は避け，もう少し一般的なレベルで記述する方向で修正を行った。
- ・会議が大幅に延びたため，委員が検討の途中で所用のために退席せざるを得なくなった。このため，それ以後の検討は残りの出席者で行い，完成した授業モデルを退席した委員に確認してもらうこととなった。
- ・最終的に，原案をもとにした授業モデル案について，委員会としての完成をみた。

(c) 原案（臨床心理学領域）についての検討

- ・作成担当委員が欠席となったので，残りの委員で検討した。

- ・原案は臨床心理学にきわめて特化しているとの指摘がなされた。特に、委員会で決定した心理学としての到達目標とは別に臨床心理学領域としての到達目標が示されていることもあり、「ここで作成するのは基礎科学としての心理学の学士力なので、『その一領域の、具体的な応用としての臨床心理学』で心理学全体の学士力を語ってしまうのは、理論的に不整合なのではないか」という疑義が示された。そこで、念のために前回委員会の議事録を参照し、臨床心理学領域について到達目標を別立てに立てるということについて議論および決定がなされていないことを確認した。それを踏まえて、臨床心理学としての到達目標を別立てで併記することはやめることとなった。

- ・修正の方針としては、原案が心理学の到達目標3であることの原点に立ち返り、全体の枠組としては心理学全体の学士力とする方向で修正することとなった。原案にある臨床心理学については、到達目標3を具現するためのひとつの例と位置づけ、授業シナリオ以下で生かすこととした。

- ・以上を踏まえて検討し、最終的に原案をもとにした授業モデル案について、委員会としての完成をみた。ただし、原案を作成した委員は欠席で議論に参加していないので、検討の経緯とともに完成した授業モデル案をメールで送付し、了承を得ることとなった。

(2) 今後の予定

原案を作成した委員から了承を得て、一週間後にはこの2つの授業モデルで会員にアンケートを取ることとしたい。アンケートをとる期間は2週間をいどとする。9月下旬から10月上旬あたりで、その集計結果を踏まえて検討するための次回委員会を開催する予定である。